

ALT



こんにちは
ルーカス・クラークソン
外国語指導助手(ALT)
です

西大寺裸祭り

今月は皆さんに僕が日本に暮らして以来、最も面白くてスリリングだった体験をお話ししましょう。西大寺会陽はだか祭りです。これは岡山県西大寺の境内で毎年行われるお祭りで、奈良県のALT(外国語指導助手)の間では、長年にわたり数々の面白い話が伝わっています。二月に僕は連続4回目の参加を果たしました。今年は凍りつくような寒さと目のまわりにできたあざのため、特別に忘れがたいものになりました。

今年僕たちの一行は11人の参加者と12人の見物者からなり、僕の過去4回の中でも最大規模のものでした。僕を含め4人は経験者なので先に待ち受けている恐怖についてはわかっているのですが、7人はまったく知らぬが仏でした。岡山まで電車でたっぷり2時間半以上かかりましたが、この時間を僕たちベテランは新米を怖がらせるのに使いました。もちろんこのからかいはすべて善意からのもので、新米の人に心準備をしてもらうためなのです。

岡山駅に着くとすぐ、僕たちはホテルにチェックインし、酒に酔うことで後に控えている苦痛を少しでも減らせるようにと居酒屋に向かいます。午後8時、参加者のバスは岡山駅を後にして西大寺に向かいます。バスの中は、これまでALT仲間が言い伝えている通り荒々しい祭り気分が満たされ、そのうち「ワッショイ、ワッショイ。」のかけ声がおこります。ついに僕たちは、見物客の大群衆と花火が待ち受けるお寺の近くに到着します。そして青い大きな更衣テントに入って行きます。そこにはふんどしに着替えるという、その夜一番目の苦痛が待ち受けているのです。ふんどしを着けたことがある人には、今更改めてその気持ち悪さを言う必要はないと思いますが、経験のない人はボア・コンストラクター(大蛇の一種)がとぐろを巻き、下半身の大事なところを締め付けて動かないようにしている図を想像してみてください。

僕たちALT仲間は、裸でふるえながらテントから出てきます。でも何千人もの見物人たちの声援に励まされ、気持ちが高まってきます。そこから伝統にのっとった儀式が始まります。まず観音さまの像が建っている大きなプールを走って身を清め、お寺の回りを二周走り、時間になると本堂に向かってダッシュします。そして本堂の下で、少しでも有利な場所を取ろうと、3時間近くふんどしを着けた男たちがおしあいへしあい、とっくみあいするのです。そしていよいよ午前0時になった瞬間、お坊さんたちによって「宝木」(しんぎ)と呼ばれる棒の束が投げ入れられます。宝木を手に入れた人は、その年の幸運と繁栄が約束されるのです。

この争奪戦の大混乱の中で僕は目にあざができ、首を絞められました。僕の仲間たちはさらにひどくパンチを食らったり、けられたり、引っかけたりしました。お寺を取り囲む見物人たちには、僕たちはきっと蒸気を出し理由もなくうごめく、何千もの腕を持つ一匹の巨大な怪物に見えたことでしょう。



結局僕たちはぶたれ、打ちのめされ、宝木なしで、お寺を後にしました。でも僕たち仲間の誇りは、決して奪われることはありませんでした。いつの日か、自分の孫たちに、信じられないほどすごい話を、語るができるだろうという喜びとともに。

*この記事は、ALTの書いた英文を訳したものです。
英語版は中央公民館にあります。